

- 名古屋大学附属図書館研究年報, 2008, (7), p. 25-34.
- (69) キャロル, ウィル. ラーニング・コモンズ: 学生支援との連携. 大学図書館研究, 2008, (83), p. 6-10.
- (70) マクウィニー, ローリー・A. “2章 インフォメーション・コモンズ: 未来の大学図書館”. ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち. 勁草書房, 2012, p. 37-61.
- (71) ロバーツ, レジーナ・L. “3章 ラーニング・コモンズの進化する風景”. ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち. 勁草書房, 2012, p. 63-75.
- (72) ベネット, スコット. “7章 高等教育における学習スペースの設計に当たって最初に問うべき質問”. ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち. 勁草書房, 2012, p. 103-139.
- (73) 小林一章. マイライフ・マイライブラリー: 東京女子大学. IDE, 2009, 2009(5), p. 32-37.
- (74) 西森年寿. “3 ケーススタディ: マイライフ・マイライブラリー (東京女子大学)”. 学びの空間が大学を変える. ボイックス, 2010, p. 78-99.
- (75) 茂出木理子. ラーニング・コモンズの可能性: 魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ. 情報の科学と技術, 2008, 58(7), p. 341-346.
- (76) 餌取直子ほか. お茶の水女子大学附属図書館における学習・教育支援サービスのチャレンジ: 図書館の学習・教育支援サービスに限界はない. 大学図書館研究, 2008, (83), p. 11-18.
- (77) 呑海沙織. 溶ける境界線: 利用者と図書館の間で. 情報管理, 2010, 52(10), p. 618-621.
- (78) 椿本弥生. “5 ケーススタディ: 公立はこだて未来大学”. 学びの空間が大学を変える. ボイックス, 2010, p. 130-153.
- (79) 柳澤要. “6 開かれた大学を実現するコミュニケーションスペース”. 学びの空間が大学を変える. ボイックス, 2010, p. 156-179.
- (80) 小山和伸ほか. ラーニング・コモンズ: 公立はこだて未来大学の事例. 経済貿易研究, 2011, p. 149-152.
- (81) 美馬のゆり, 山内祐平. 「未来の学び」をデザインする. 東京大学出版会, 2005, p. 233.
- (82) 小林麻美. 組織を離れた個人のためのコワーキングの場: アカデミーヒルズ六本木ライブラリー. 情報管理, 2011, 54(9), p. 545-554.
- (83) 前田明洋. ナレッジ・コモンズ. 日経 BP 社, 2013, p. 231.

[受理: 2013-08-20]

Yonezawa Makoto.

### Learning Commons that Facilitates the Users' Learning.

This paper reviews articles on Learning Commons published in Japan from 2006, when I introduced the movement of opening Learning Commons at academic libraries in the U.S. and the U.K. for the first time. I divided articles into the following four categories and examined them: 1) introductory articles, 2) theoretical articles, 3) review articles and 4) case reports. This paper is intended to be a useful pathfinder on Learning Commons for Japanese readers.

著作権法で認められる場合以外で、視覚障害その他の理由でこの雑誌を活字のまま読むことのできない人の利用に供するために、著作権者の許諾が必要な方は、国立国会図書館まで御連絡ください。

連絡先 国立国会図書館関西館図書館協力課  
住 所 〒619-0287  
京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774-98-1448